

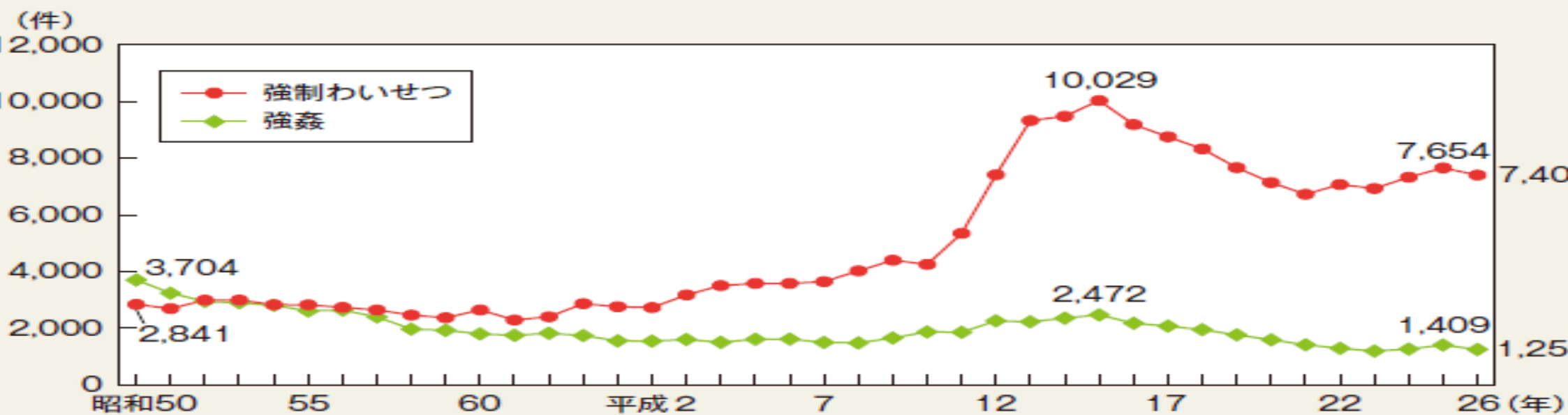
教育フォーラム



性加害者を無くすために
～子どものうちから伝えておくべきこと～

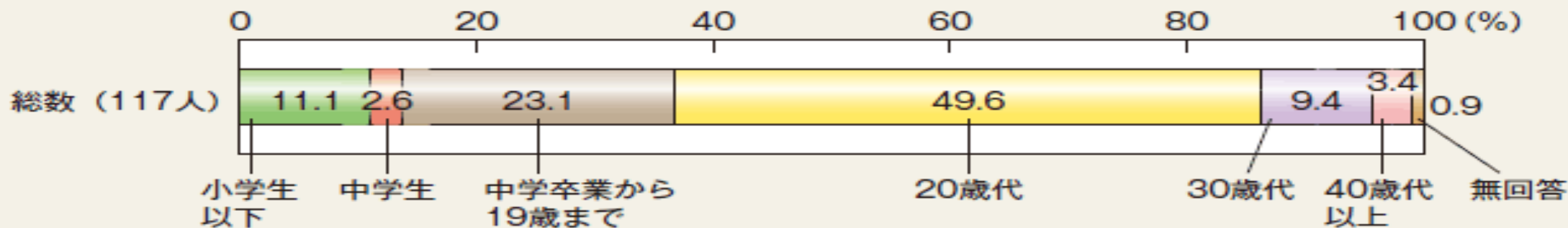
京都教育大学教授 関口久

I-4-9図 強姦、強制わいせつ認知件数の推移



(備考) 警察庁資料より作成。平成20年から24年の数値は、平成26年8月1日現在の統計等を基に作成。

I-4-10図 被害にあった時期



(備考) 1. 内閣府「男女間における暴力に関する調査」(平成26年)より作成。

2. 「小学生以下」: 「小学入学前」及び「小学生のとき」の合計
 「40歳代以上」: 「40歳代」及び「50歳代以上」の合計

I-4-11 図 被害の相談先（複数回答）

0 10 20 30 40 50 60 70 80 (%)

友人・知人に相談した 22.2

家族や親戚に相談した 5.1

警察に連絡・相談した 4.3

医療関係者（医師，看護師など）に相談した 1.7

警察以外の公的な機関（市役所など）に相談した —

民間の専門家や専門機関（弁護士・弁護士会，カウンセラー・カウンセリング機関，民間シェルターなど）に相談した — (M.T.=103.4%)

学校関係者（教員，養護教員，スクール
カウンセラーなど）に相談した —

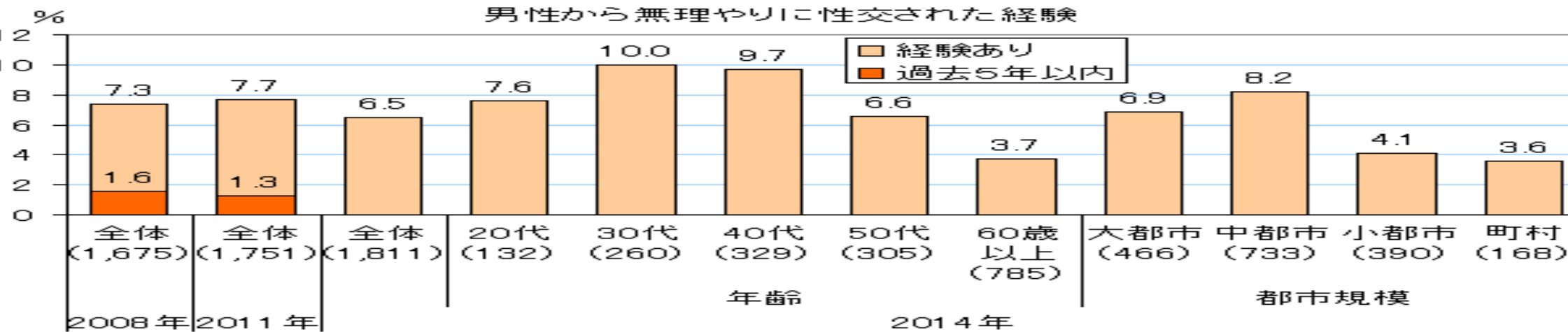
その他 1.7

どこ（だれ）にも相談しなかった 67.5

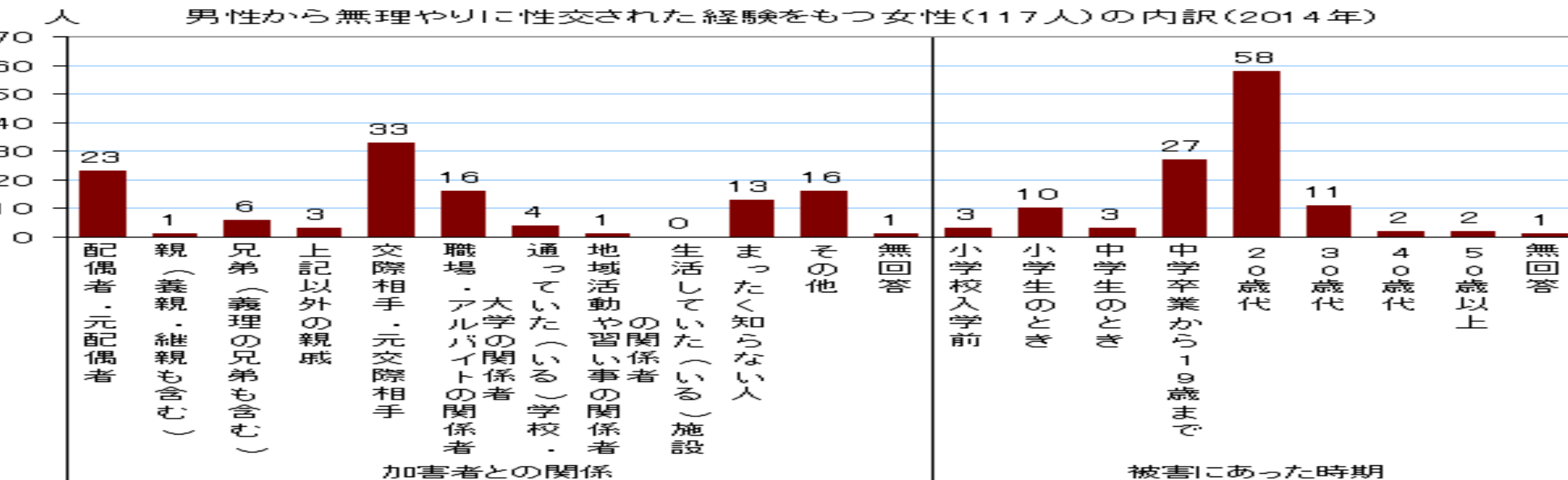
無回答 0.9

- (備考) 1. 内閣府「男女間における暴力に関する調査」(平成26年)より作成。
2. 異性から無理やりに性交されたことがあった人(117人)に対する調査結果。

被害者の状況



*カッコ内は回答者の母数



内訳については2回以上あった場合は「より深く傷ついた経験の1つ」についての回答
 資料)内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査」(2014年調査)

人間の性は、本能でなく文化
人権の不平等が温床となる 性暴力と性の商品化 悪しき文化
「鬼畜のような行為」→鬼は不明 but 人間以外の動物には失礼

暴力とは「性的自己決定権の侵害」

性的自己決定権とは ノーと拒否できる権利(優先)

暴力は 殴る蹴るというレイプだけでなく、日常的にあるもの

意志に反して ②同意なく ③攻撃的、搾取的、操作的脅迫的方法で
なされる「性的相互作用」=あらゆる性行動

面事象だけでなく被害者(集団)と加害者(集団)の人間関係や力関係・状況を考慮す

戦前の多産(途上国も)と現代の超少子化 社会的「性暴力」 戦時に最大の性暴力

性暴力 たとえ抵抗しなくとも たとえ「イエス」と言ったとしても

①優位性が利用されれば暴力

身分地位の差 経済差(売買春も) 年齢差 体躯の大きさ強さ
人数差(複数対ひとり) 認知能力差 成績差 先輩・後輩関係
(酔いやドラッグは双方の全てを助長悪影響、またの酔いの差も)

②同意の条件が満たされなければ暴力

・行動の理解力 社会的規範の認識力(社会モラル)
結果への認知力

・選択尊重の前提と理解 意志決定の力と自発性
「権力/金銭など なんらの搾取・強制・拘束なし」

・イヤと言える知的能力(年齢・障がい・酔いやドラッグ)

暴力自体も売買春と同じ 人権不平等を利用するもの

隷制時代の「ご主人様」と「奴隷」

封建時代のお殿様と庶民

人権意識が進んでネーミングされて 可視化 顕在化する

暴力は「民事不介入」「夫婦喧嘩は犬も・・・」=いまはDV

夫・恋人などのつきまといは情が深い=いまはストーカー

上司からの誘惑・からかい・いやがらせ=いまはセクシュアル・ハラスメント

にいうと 家父長制の時代は法律や規範によって、戦後高度成長期は男

役割分業によって、非平等的性関係を余儀なくされてきた

:それは性的自己決定権の侵害

ジェンダー平等時代の性的関係・恋愛・結婚に適合できていない とくに男

性暴力と売買春はジェンダー不平等が温床 売買春の歴史にみる

8世紀(大和時代後期から奈良時代)日本

奴隷の売買で男性の方が高価で=売買春の不在 女性私有財産

10世紀(平安時代中期) 專業売春「夜発」(やはち)で変化

時代の変遷男性中心の家父長制社会への移行

女性の私有財産が制限され、経済的に男性の下位に従属

女性は結婚の決定権、求婚権、離婚権も失っていく

女性の意向を無視した強姦もこの時期から発生したとされる

(『学び合う女と男の日本史』 青木書店より)

16世紀、秀吉時代から売春婦を管理・統制 公娼制化→江戸の吉原

明治時代1872年に「娼妓解放令」しかし「本人の希望」で残存

業者と売春婦に税金を義務づけ、従来同様の営業を公認

斡旋業者から前払い借金を得て、貧農の娘らが家族のために身売り

会との変遷 近代の戦争・戦士づくりとの関連

戸時代まで庶民に大きな男女の主従の関係はない

しる、明治期になり武士階層の家父長による支配が一般化
民皆兵制＝全男性が戦士になり、戦争をできる帝国主義へ
争遂行システム

主の権限の絶対化 模擬的天皇中心の中央集権主義 上意下達徹底

妻賢母教育 性も従属 子産み子育ての役割(産めよ増やせよ)

処女性の尊重 離婚再婚の忌避

兵士になって出兵しても貞操は守る＝姦通罪

死しても 血は残り 銃後の家族は「未亡人」が支える「血でつながる命」

戦後はそれが企業戦士と支える専業主婦という関係で残る

男性が長時間働き、家族を経済的に支え、妻が夫・家族をケアする。

性もその関係で男性には快樂の権利 女性には「おつとめ・義務」

明治からどの時代も、男性の買春には大らかで、ダブルスタンダード

生殖の女性(妻)と快樂の女性(買春・風俗)に分離

家父長制時代「制度規範」 戦後「経済的優位性」によって関係構築

暴力は性の支配コントロール達成欲求が大きな要因 ≠ 性欲 ≠ 本能

わば優越性 優位性の利用と確認行為

因は日常生活の生きづらさに 性的な認知の歪み(イヤでも喜ぶ)

とんど計画的により狙いやすい相手と時間空間を選ぶ

常生活の自信や生きがいを見いだせないことが多い

『ストーカーは何を考えているのか』

『性犯罪者の頭の中』

だし集団の性暴力者にそのような特徴なし

群集心理 没個性化(善良でも非道に)

匿名化 責任の拡散/分散 興奮状態 再犯性低い(集団離脱 良い人)

軍隊にはこのような特徴があるのでは...

ホモソーシャル文化 男性(集団)優位 女性蔑視 同性愛嫌悪 連帯意識

戦後は 会社のオトコづきあい 部活/サークル 消防団

たくさん産んで国家に貢献」官房長官や「セクハラ野次」の都議会

映画カジュアリティーズ 66年のヴェトナム戦争実話 89年制作





戦場のレイプ

時暴力の一形態であり、「性的表現を用いた攻撃である。それ相手に精神的肉体的苦痛と死の恐怖を与えるために集団の前で行われるのが普通であり、敵である男性に自分らの力をすと同時に相手の無力を誇示する。男性は自分の娘・妻・母レイプをやめさせることができず、その身体と名誉を守ることでできなかったとして恥辱や虚無感を覚える。

これはレイプ実行者が、敵の男たちに精神的・身体的ダメージを与えることで、彼らの優位性と支配を『敵』の瞳に焼き付け刻する儀礼である」

(『戦争とジェンダー』若桑みどり 大月書店より)



ドイツ ラーフェンスブリュック(女性だけの収容所)

ここから強制性奴隷に各収容所へ行かされる

アンジェリカ・メイヤーさん(研究員)

「世界が共同して戦時強制『売春』について、被害女性の尊厳を取り戻していく取り組みが重要になっている」

「戦争中はよくあることで日本だけが悪いんじゃないから責任はない」という日本の一部とは対局

社会的環境要因がいまも残る

2014年10月第9回世界経済フォーラム世界男女格差報告

分野(健康医療の機会、教育機会、政治参加、経済的平等)で比較

①アイスランド ②フィンランド ③ノルウェー ④スウェーデン ⑤デンマーク

やあ 日本は、136カ国中の何位

日本(104位 2013年105位)

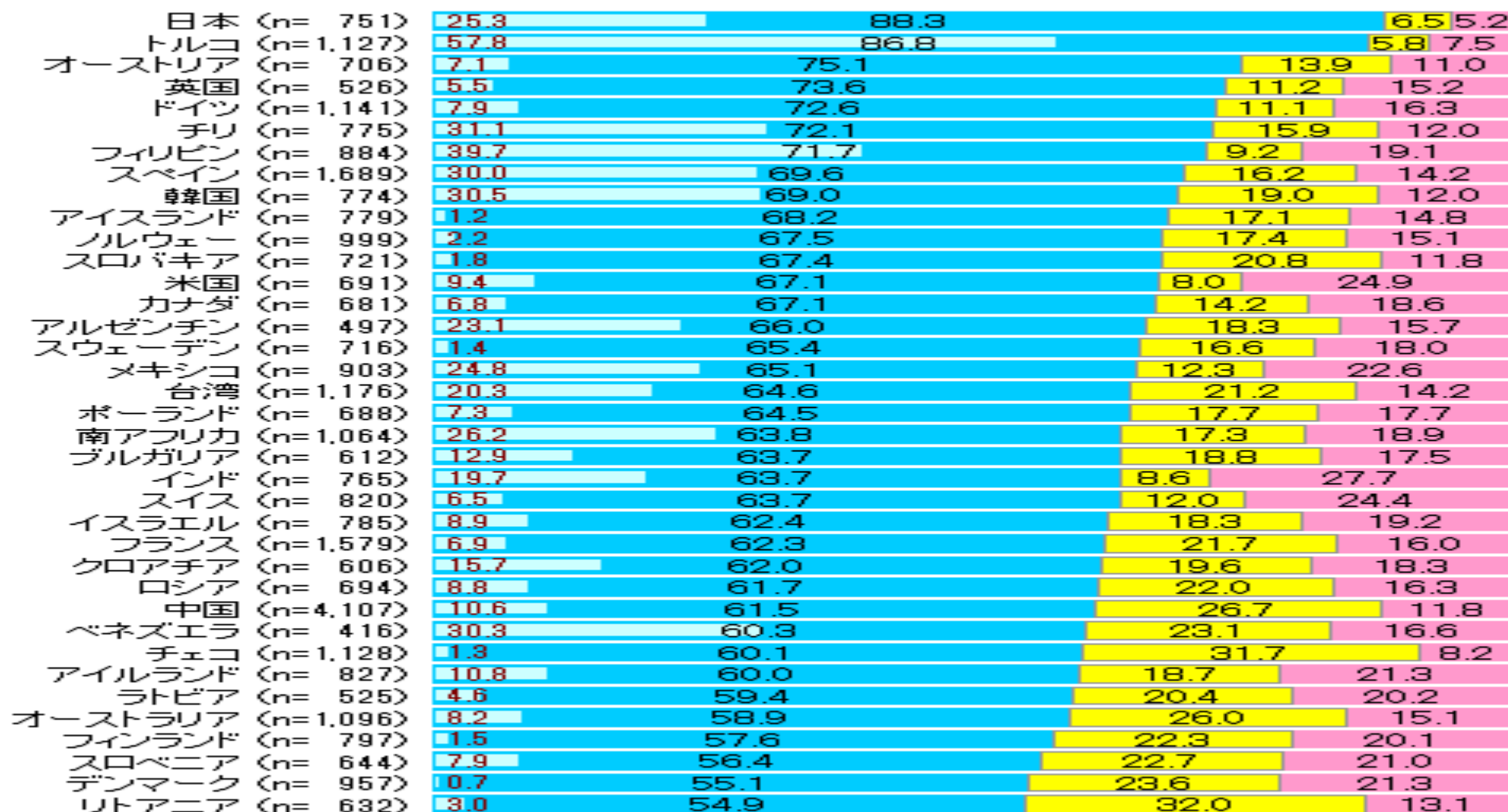
韓国(117位 2013年111位)

DV・性暴力や性の商品化の温床「JK産業」「託児所付き風俗」

例 「愛人?シングルマザー」「不漁漁師の妻」 男性も悲哀は後で

夫婦の所得はどちらが多い？（国際比較）（2012年）

■ 夫の所得の方が多い ■ 同等 ■ 妻の所得の方が多い ■ 妻無収入



（注）配偶者（またはパートナー）と一緒に生活している者の回答結果（わからない、無回答を除く）。同等には両方が無収入の場合を含む

（資料）ISSP [<http://www.issp.org/index.php>]

国連自由権規約委員会勧告 昨年 7月24日

進展なしを遺憾

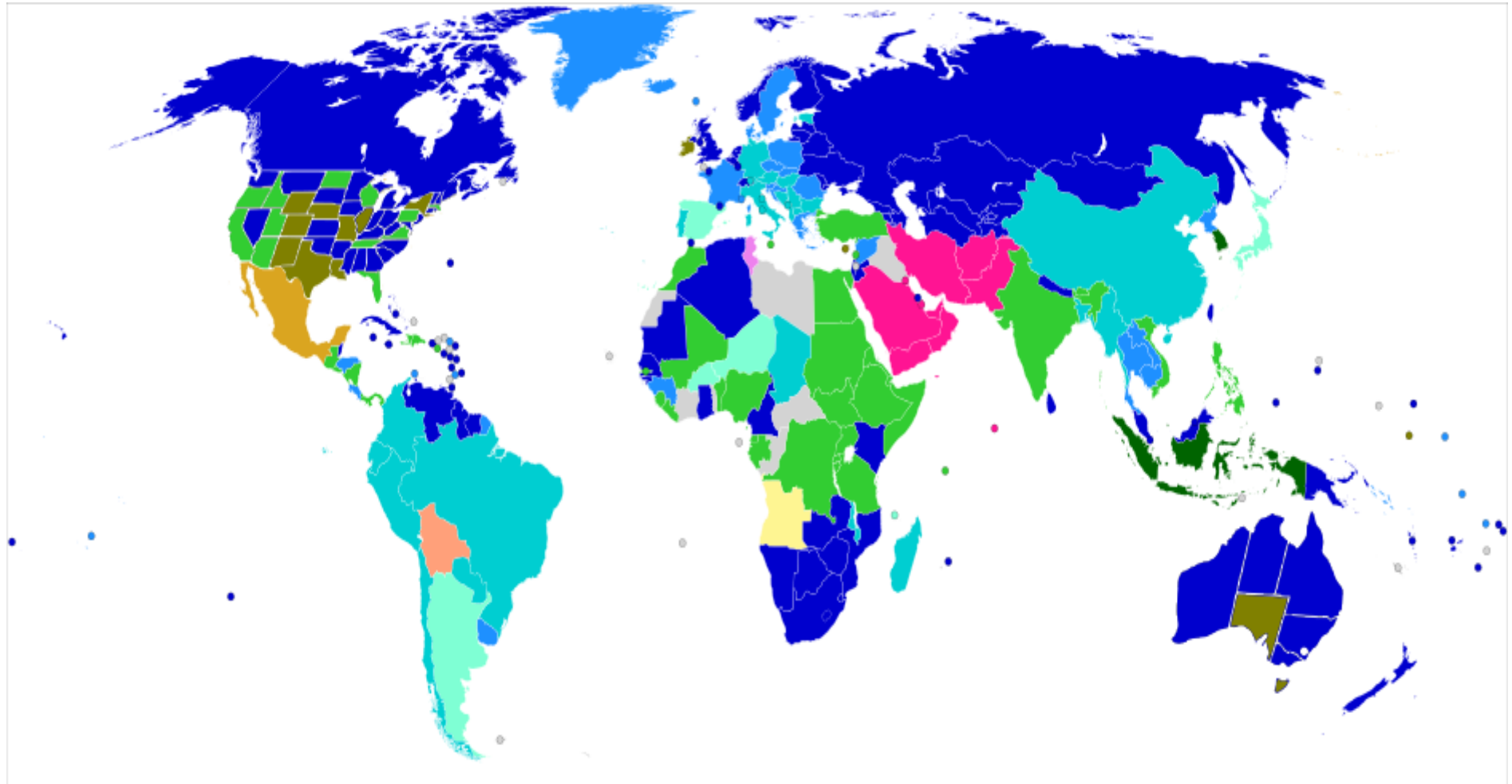
- ・刑法での強姦の定義の範囲の拡大
 - ・性交同意年齢を13歳を超える年齢へ
 - ・強姦罪や他の性犯罪を非親告罪とすること
- 強盗65.5% 性的事件 13.3%申告率 2000人中4人起訴(小林美佳さん)

懸念

- ・DVが依然として蔓延、保護命令発令に時間がかかりすぎ、加害者人数が非常に少ない
- ・同性カップル及び移住女性への不十分な保護
- ・セクシュアル・ハラスメント及び妊娠・出産による女性の解雇に対する罰則措置が欠如

性的同意年齢にみる 日本の後進性 全世界における性的同意年齢

■ 第二性徴を以って、 ■ 10歳以下、 ■ 12歳、 ■ 13歳、 ■ 14歳、 ■ 15歳、
■ 16歳、 ■ 17歳、 ■ 18歳、 ■ 19歳、 ■ 20歳、 ■ 21歳以上、 ■ 州・地域
による、 ■ 婚姻を以って、 ■ 規定なし、 ■ データなし



衰 「男になる」「男の中の男」競争 ヒエラルキー ができる
トップ以外は敗者のつらさトップも孤独

い 自己破壊的行為 自殺、DV 家出、校内暴力、突然キレ、不登校

印される感情表現 遊び変化⇒ 非社交的内向的 暴力への親和性

時間会社人間にされてきた 家族を持つため 養うため

いしそのシステムは崩壊 正社員で終身雇用 右肩上がり賃金 今は昔

に現実とのジレンマが 育ちそびれ 結婚できない男性増 孤立

と外への暴力 危険で暴力的関係 逃避から排除される 同じ信頼欠如



犯罪再犯防止指導 教育専門官

環境 「何らかの傷つき体験を持っている。家庭環境に恵まれた人の方が稀である。性犯罪者も含め何らかの生育環境要因を抱えている。ほとんどで、性犯罪時も安定した生活をしているケースは少ない。生活の崩れがある者が多い」

関係 「性犯罪の背景には仲間同士での男らしさの誇示という要因もある。独身派で、むしろ対人関係に協調性がなく、親密性に乏しいケースの方が目立つ。それが再犯リスクの高さにつながっている。だから親密性の獲得という意識が強い。グループワークが有効であり、『こういうグループがあれば僕は犯罪していません。こういうグループが社会にないですか』という感想を受講者からもらうことがある」

主な要因 「概観的だが、偏った性的嗜好の人より、性的な認知のゆがみの人が多い。」

性教育への希望「性にまつわる危機、例えばマスターベーションや男としての歪んだ認知や支配欲の原因となる『オトコとしてのコンプレックス』など、弱さや本音が扱われていないという感覚がある。グループでラットにそのような性について話し合う『相互交流』が必要と思う。上から下に教授的に答えを与えるような教育ではなく、まず同性と安心して自分の性について話せることで親密性の獲得ともなり、後に女性ともフラットにつきあえることにつながる。それと性のメディアリテラシー教育は必要で、無責任に垂れ流されている性情報の中で能動的に賢く批判的にチョイスできる能力をつけてほしい」

幸福追求を 人権と捉える

性の人権として学ぶ 子ども期が豊かさが自立へつながる

①性を肯定する(自己信頼) ②性を科学的にみる ③性の多様性理解

キーワード 自己信頼

自分の大切さに気づく」＝「他者の大切さに気づく」(とくに社会的弱者に乏しい)
自分のからだに感謝し、自分のこころと生と性を大切にできる

キーワード 性愛の肯定

要なきものと遠ざけず子どもの性愛行動や気持ちを肯定し、自他の関係を安全と信頼
に基づきコントロールできる力をつける

キーワード 科学で理解度に合わせた教育

確かな事実・真実・現実に基づいた知識・情報を理解度に合わせて教育することで、世
に溢れる興味本位の性愛情報や、性被害・加害から子どもをまもる

イヤ 逃げる 告げる 「自尊感情が基本」

常の性暴力を考える

も残る 性暴力への偏見誤解

レイプ(性被害全般も含む)の被害者にも責任(落ち度)がある。

男性の性欲(性衝動)はおさえがたい。レイプはオスの本能である。

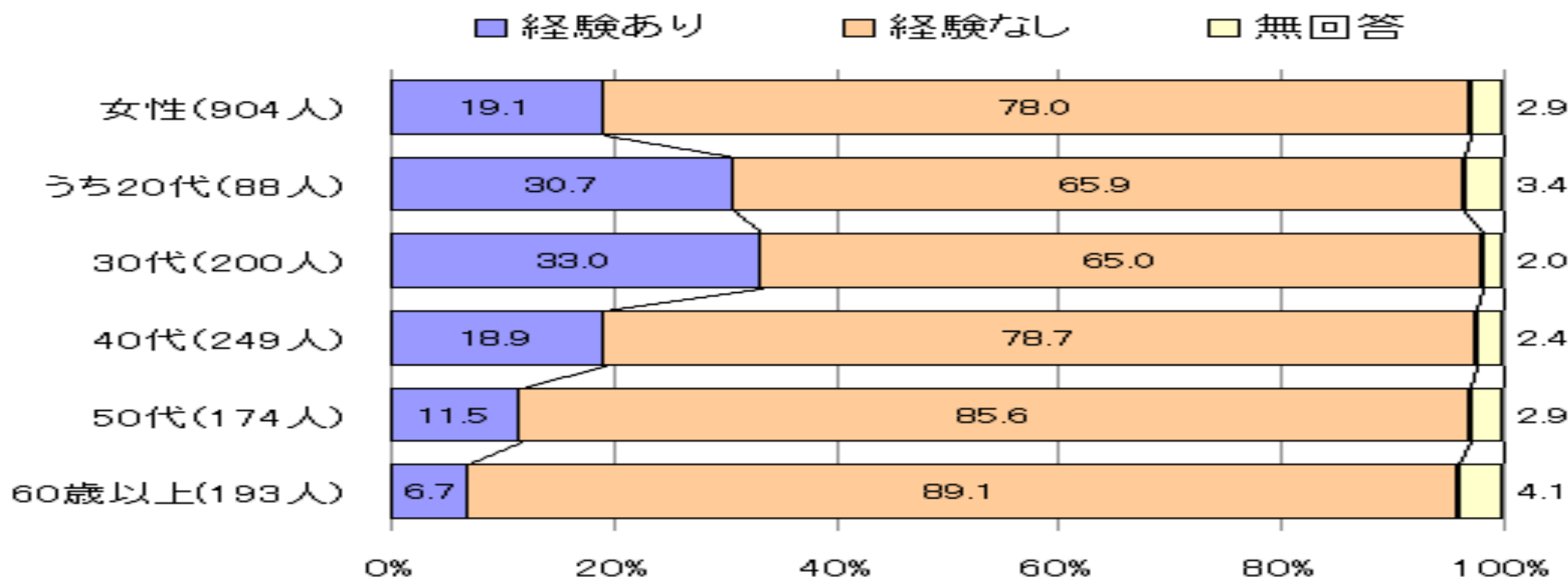
レイプは見知らぬ人から野外で襲われる犯行である。

夫婦間 恋人間に性暴力は存在しない

被害者も望んでいた。イヤと言わなかったし、言っても本心じゃなかった

少年や男性は加害者側で性被害に遭うことはない。

恋人からのDV被害経験(女性)

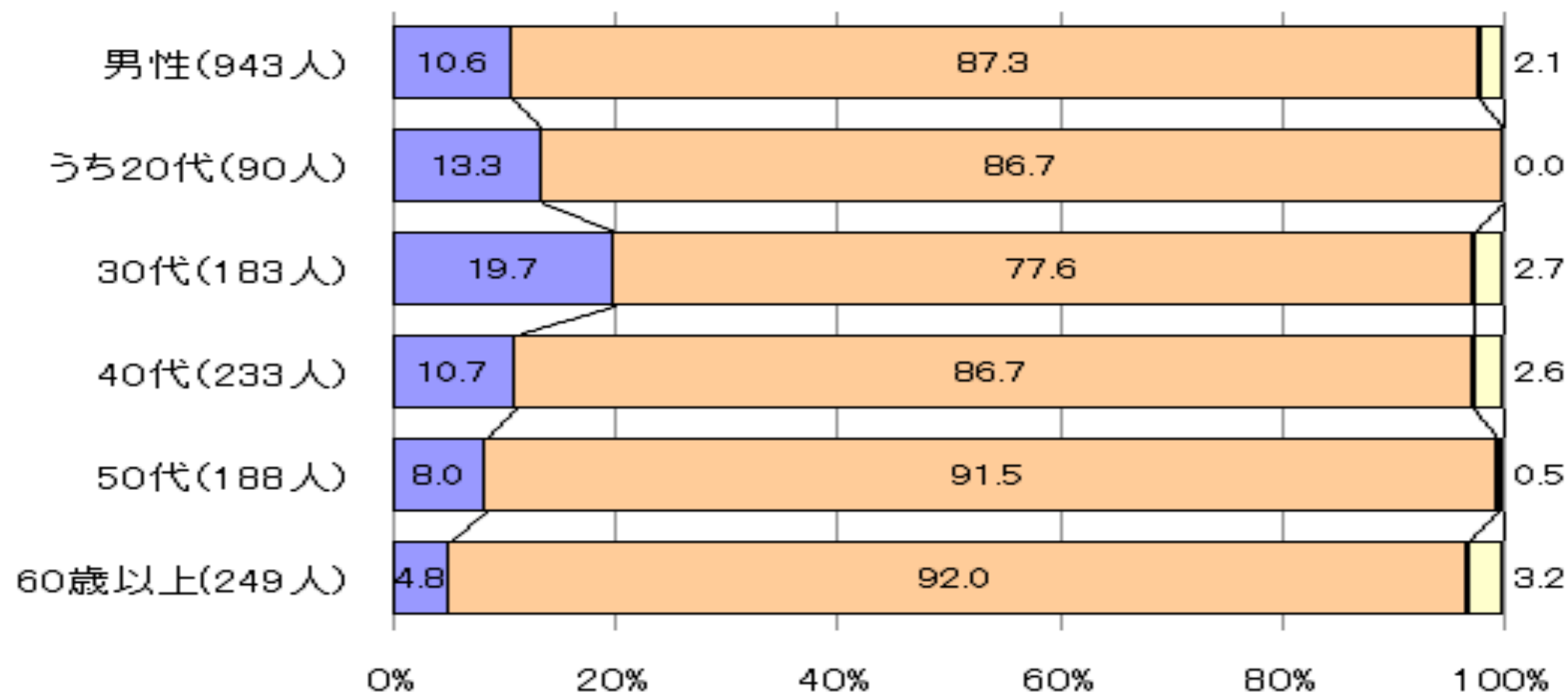


注) これまでに交際相手がいいた者が、その交際相手から受けたDV被害に関する集計結果である。具体的な問は、A身体的暴行(例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行)、B心理的攻撃(例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫)、C経済的圧迫(例えば、バート代や貯金を勝手に使われる、デート代を無理やり払わされるなど)、D性的強要(例えば、いやがっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど)のいずれかがあったか。

資料) 内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査」(2014年調査)

本人からのDV被害経験(男性)

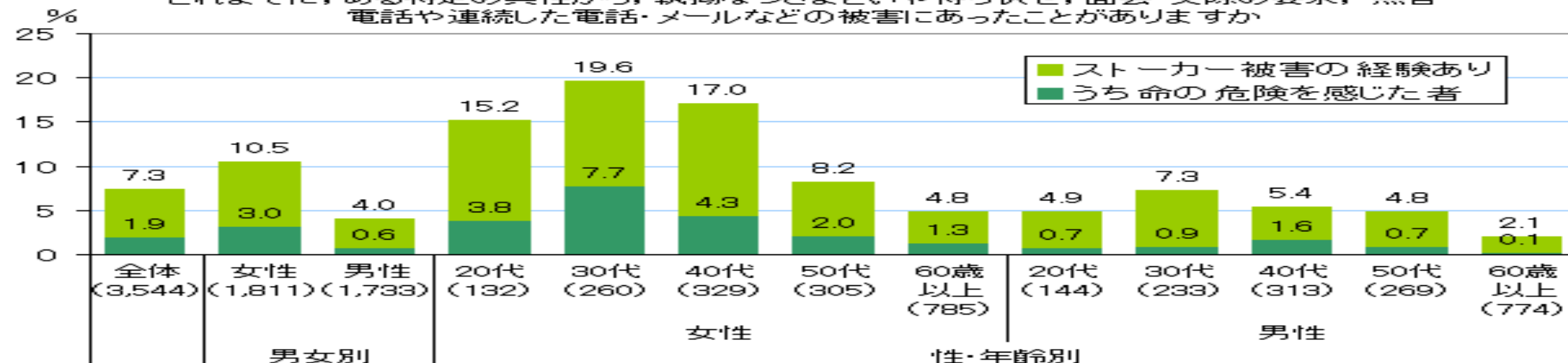
■ 経験あり ■ 経験なし ■ 無回答



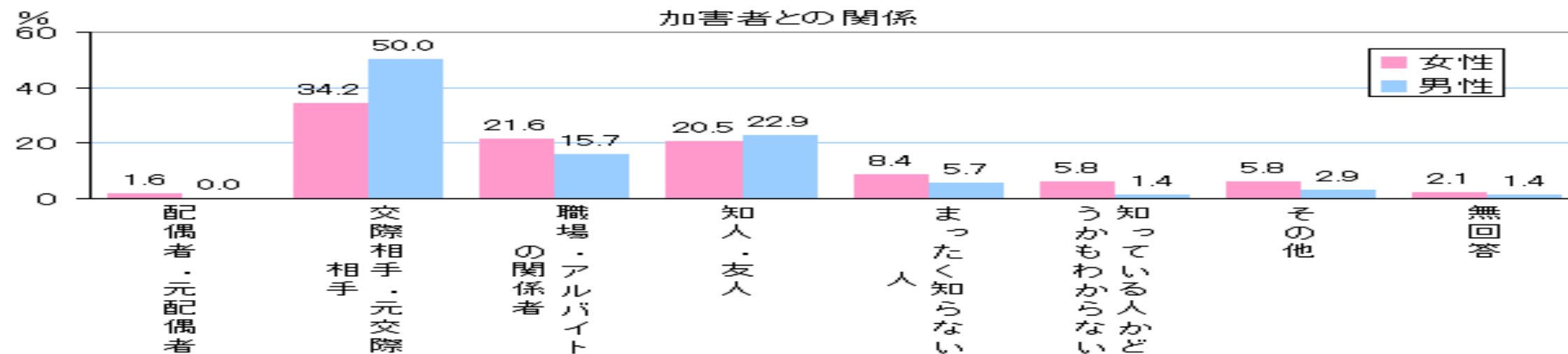
注) (資料) 同上

ストーカー被害の状況

これまでに、ある特定の異性から、執拗なつきまといや待ち伏せ、面会・交際の要求、無言電話や連続した電話・メールなどの被害にあったことがありますか



*カッコ内は回答者の母数



注) 加害者との関係については2人以上からあった時は「より深く傷ついた経験の1つ」についての回答
資料) 内閣府男女共同参画局「男女間における暴力に関する調査」(2014年調査)

デートDV(恋人やそれに近い関係の暴力)の種類



1.身体的暴力:相手に向かって物を投げる、たたく、蹴る、噛むなど、そのふりをする

2.言葉、心理的感情的暴力:汚い言葉を使う(ばか、チビ、ブス、デブ、汚いなど) 無
する、嫌がらせ ストーキング、頻繁な電話メール、メール履歴チェック・消去、過剰
嫉妬 スマホ・携帯の功罪

3.性的暴力:合意のない性交渉、交渉時に痛めつけたり侮辱したりする行為、避妊や
性感染症予防への非協力、トラブルの責任放棄、裸やセックスの写メを
ネットで流す(リベンジ・ポルノ)

①撮らない ②撮らせない ③送らない ④流さない

4.経済的暴力:お金を貢がせる、借りた金を返さない

複雑に複合して起こる場合が多い

人間関係学習 マイナスからゼロへ

デートDV(恋人やそれに近い関係の暴力)克服

10代から20代では 女性13.7% 男性5.8%が被害

20代の女性に限れば23.4%が被害 (2012年内閣府調査)

暴力と愛は違う デートDV事例

①たった一回のセックスで妊娠・・・中絶

対等平等でなく、一方的で、尊厳と希望を奪う

認知の歪みをただす

※ 対等平等に合意納得した

①相手と

②ときに

③場所で

④方法で(この方法のなかには、「ノーセックス・性器接触・挿入なしのセックス」、避妊、性感染症予防などあらゆる方法の選択が入る)

この条件を一つでも満たさない性行動は暴力である。日常的にあるもの！！

愛って最高？ セックスって愛の証として絶対必要？

恋愛や相手の気持ちを知るために 文化の違い 思いの違いを乗り越える

った一回で妊娠して中絶した女性の教訓から

性・恋愛情報の間違い 関口の「恋愛」3原則

「恋愛」をしていなくても人の価値は変わらない。独りでも片思いでもOK

「恋愛」してもノーセックスで、語りやふれあいで十分満足できる。

ノーセックスの性の交流 （広い意味の性的交流）

人間関係は即席ではできないし、お金では買えない。（空虚）

**性器セックスをするなら、たとえ結婚していようが、相互の安心・安全・信頼
が不可欠である。**

そのため対等な話し合いで、避妊、性感染症予防、ノーバイオレンスの実行が最低限必須



恋愛や関係を見直す

「愛」って何ですか？

その行為で 安全？ 安心？ 信頼深まる？

愛の対義語(反対の言葉)は？

おつきあいや恋愛にいちばん必要な力は？



性の自立を

性的な発達保障 小3くらいで予めからだの変化と月経と射精を肯定的に知らせる
その変化を喜んであげる。対処のしかたをわかる方法で

射精のコントロールとプライバシーの確保(加害者誤解を防ぐ)

父が、信頼できる男性が、よりわかりやすく教える

性器のことや性の無知、欲求のコントロールを知らないから
トラブルとして爆発する。

性の加害者にならないために 衝動のコントロールの仕方を教える

衝動は抑えがたいが行動はコントロールできる

ふれあいの文化の獲得 からだにタッチ

ただ愛着願望がある場合はそれを補う。(社交ダンスは有効)

恋愛やつきあい、その教育と支援を 可能性を広げる

岡村正行監督作品

Shall we ダンス?

役原広司 草刈民代



ただし被害者が男性の場合もある

- 射精という反応があれば、自分の気持ちとうらはらの身体反応「快感」の後ろめたさに苦しむ
- 男性ジェンダーのすりこみ「男なんだから」「性被害あるはずがない」「自分で解決できる」などと思いこみがち
- 同性愛嫌悪の社会では加害者が男性であった場合、自分が同性愛者との偏見を受けるのではと混乱がおこる
- 加害者が女性の場合、被害者にしてもらえない「ラッキー」→被害自体が言えない、言っても受け流し
- 集団性暴力(部活・サークル)などでは、「伝統」として加害・被害認識が薄く、集団擁護優先でもみ消し

インターネット・ハイアス・ホルノ情報からの解放

幼少期から交流を楽しむ環境 食事・会話・ふれあい

「助けて」と言える人、仲間を持つ

人や家族は多様 みんなが自立・互助

相手の自由な意見を尊重 無言はイエスじゃない

イヤそう、痛そう、～行為をやめ真意をききなす。

性器性交至上主義・射精至上主義を卒業

男性主導で女性は受身も卒業

マフでハードな性行為も卒業

安全と安心 信頼を 避妊や性感染症予防

つきあい ≠ 恋愛 ≠ セックス ≠ 性器性交 ≠ 射精目的 ≠ 唯一

感

性の自立度チェック（自立を目指す指標）

- 自分のところとからだ・性を大切に思えて大事にできる。
- 周りの人や特定の相手のところ(意思)とからだ・性を尊重できて侵害しない。
- 友人やメディアからの性情報のウソを見抜き、科学的で正確な情報を得られる。
- 性的な衝動を統制できて、予期せぬ妊娠・性感染症や暴力・強制を予防できる。
- 同性愛など性愛の多様性を理解し、自他の主体性個別性を尊重できる。
- 性や恋愛で悩んだときや困ったときに信頼して相談できる人や機関がある。
- 友人や特定の相手の悩みやトラブルの相談を受けて解決につながられる。

さよならも笑顔

よい人間関係は別れのときに決まる
「最期の別れ」を誰とどのようにしたいか
性を学んで、後悔と涙の別れをなくし
感謝と微笑みで再会を誓う別れへ

あなたのみんなの性 もっともっと幸せに！！！！



第30回 理論と実践講座 in京都

主催 一般社団法人“人間と性”教育研究協議会

共催 京都教育大学、“人間と性”教育研究協議会近畿連絡協議会



<テーマ> “性の権利”ってなに？ ～脱貧困・脱暴力から平和へ～

日時 2016年1月30日(土)12時～, 31日(日)午前

会場 京都教育大学 C棟2階 大講義室1 他

詳しくは“人間と性”教育研究協議会HP(性教協で検索)より

